

川崎市上下水道局環境計画（概要版）

1 計画の基本的事項

(1) 計画策定の背景

国全体に環境問題への対応が求められているが、上下水道局では、事業活動上、多くの電力等を消費し、汚泥等廃棄物を排出することから、環境施策の推進が求められる。

(2) 計画策定の目的

地球温暖化対策に係る動向や上下水道の統合を踏まえ、局の環境施策を総合的・計画的に推進する。

(3) 計画の位置付け

「川崎市水道事業及び工業用水道事業の中長期展望」、「川崎市下水道基本構想」を上位計画とし、市の環境関連計画との整合を図りながら、局の環境施策を推進する。

(4) 計画期間

平成23年度から平成25年度までの3か年

2 環境方針及び施策体系

(1) 基本理念

環境と経済が調和した低炭素社会、持続可能な循環型社会の構築をめざし、温室効果ガス排出量の削減、資源・エネルギーの循環促進等に取り組み、良好な環境を将来の世代に引き継ぐこと。

(2) 4つの環境方針

①地球温暖化対策の推進

②資源・エネルギーの循環促進

③健全な水循環・水環境の創出

④環境に配慮した行動の促進

3 環境施策の主な取組事項

○ 省エネルギー型機器の採用

生田浄水場：送水ポンプ更新による電気使用量の削減

加瀬水処理センター：磁気浮上式単段ターボブロワ採用による電気使用量の削減

○ 小水力発電、太陽光発電システムの導入

水運用センター：鷺沼発電所・江ヶ崎発電所における小水力発電の継続実施

長沢浄水場：ろ過池・配水池などに太陽光発電システムの設置（全施設稼動:H27）

入江崎水処理センター：西系再構築施設に小水力発電を導入、太陽光発電システムの設置

○ 浄水発生土・下水汚泥の有効利用（※ 現在、放射性物質への対応を検討中）

長沢・生田浄水場：浄水発生土の排出量抑制、セメント原料・改良土への発生土の有効利用

入江崎総合スラッジセンター：汚泥焼却灰のセメント原料への有効利用

○ 建設副産物のリサイクル（※ 現在、放射性物質の関係から協議中）

水道工事及び下水道工事における建設副産物の再資源化、再生材の利用

○ 安全な飲料水の確保

水安全計画に基づく統合的な水質管理による一層の水道水の安全性確保

○ 高度処理の推進

入江崎水処理センター：西系再構築施設（1/2系列）運転開始、東系高度処理事業（改造）等に着手

等々力水処理センター：高度処理事業（一部）に着手

○ 環境技術の情報発信による国際貢献

入江崎水処理センター：西系高度処理施設⇒海外からの視察者にも配慮し最新の水処理技術を国内外に発信

長沢浄水場：見学者用ルートの設置、バリアフリー化等の施設整備

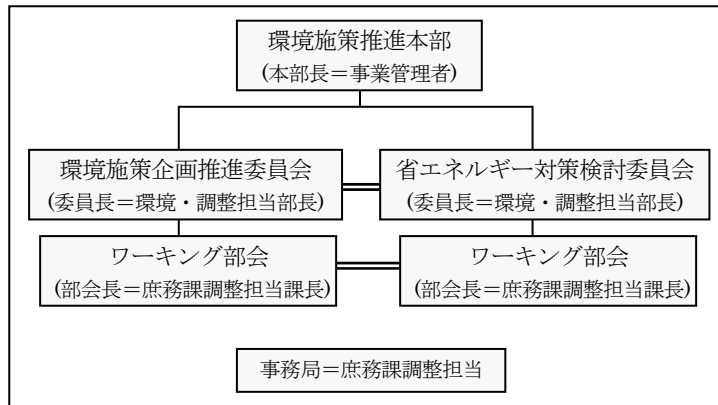
○ 環境報告書・環境会計の公表

環境施策の取組状況を示す「年次報告書」として、環境会計（決算版）を包含し作成・公表

4 推進体制及び進行管理

(1) 計画の推進体制

次の体制で本計画の進行管理、局のエネルギー管理等に係る取組を推進



(2) 計画の進行管理、環境情報の共有化

- ・ PDCA サイクルを基本とした年度単位での進行管理
- ・ 情報の共有化、環境コミュニケーション

